



国際第1委員会（委員数 47名／担当：山中常務理事）

- ◆ 担当領域：北米、中米、南米
- ◆ 活動方針：楽しく参加する
- ◆ 体制：正副委員長5名、5WG（6～9名）
- ◆ 活動内容：
 - － 担当領域の知財制度の調査研究
 - － 米国主要判決の要約を知財管理誌へ投稿（月3本程度）
 - － J08米国特許をうまく取得する方法へ講師派遣
 - － 担当領域の外部団体対応、パブリックコメント対応
 - － IP-PACへ参加
 - － 部会発表



国際第1委員会（委員数 47名／担当：山中常務理事）

◆ WG共通

- 狙い：会員企業の実務に役立つ情報の提供
- アウトプット：知財管理誌に論説掲載、別冊資料の発行
- スケジュール：2021年3月末までに原稿を投稿

◆ WG1「仮出願制度に関する調査研究」

- 毎年多数の仮出願がされているが、日本企業による利用は少ない。積極的に利用している出願人の仮出願を調査研究し、日本企業による仮出願利用の留意点を提言する。

◆ WG2「AI関連発明の米国特許取得に関する調査研究」

- 米国におけるAI関連発明の審査事例および判例を調査して、特許性判断の傾向を分析する。その分析結果を踏まえて出願時や権利化時の留意点を提言する。



国際第1委員会（委員数 47名／担当：山中常務理事）

- ◆ WG3「米国特許侵害訴訟実務マニュアルの改訂」
 - － 2016年の以降の重要判決や規則変更をマニュアルに反映させるために改訂する。具体的には、故意侵害(Halo事件)、裁判地(TC Heartland事件)、On-sale Bar(Helsinn事件)等の判決、IPRの規則変更等を反映させる。
- ◆ WG4「米国IPR制度に関する調査研究」
 - － IPRの開始決定に関する特許法314(a)条の新たな判断基準として示された Fintiv factorsに着目し、近時における判断事例を総括した上で、当事者としてIPRに対応する場合の留意点を提言する。
- ◆ WG5「中南米の知財制度に関する調査研究」
 - － メキシコにおける知財制度、特に、ビジネス戦略上重要となる訴訟制度について研究する。メキシコ特有の仮差し止め制度、重要最高裁判決などを調査し知財制度を活用する上での留意点を提言をする。